

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772500401		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	グループホーム ラポール		
所在地	耶麻郡北塩原村大字北山字地藏堂2904		
自己評価作成日	平成22年5月19日	評価結果市町村受理日	平成22年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

とても良い環境に建っており、四季折々の景色が一望でき、落ち着いた家庭的な雰囲気の中で生活していただけます。隣接する保育園、デイサービスとの交流又、ボランティアや地域の行事への参加により、地域住民の一人として社会的役割が持てます。馴染みの人との関係の継続とその人らしい暮らしが送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者の残存機能の維持について、各利用者の状態に即した支援を全職員が一丸となって取り組んでいる。
 2. 職員の異動が少なく、利用者との信頼関係が築かれており、利用者は穏やかで安心した生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した暮らしと馴染みの人との関係を継続していくことを理念の柱に於き、理念について日常的に職員間で話し合い又、理念に基づいた介護計画を作成し支援を送っている。	全職員で作成した理念は、端的でわかりやすい言葉で表現されており、事業所の玄関、居間、職員室等に掲示している。職員は常に理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々とは、日常的に挨拶を交わしたり、話をしたり、良いご近所つき合いに心がけている。又、野菜等のおすそ分けをしていただいたり良い関係作りができています。	村や地域の行事に積極的に参加し、地域と交流している。各種のボランティア(スポーツ民謡、はとぼっぼの会「ナツメロ同好会」、語り部、モダンバレエ等)を数多く受け入れている。また敷地内に開園した保育園とは花壇作りや花の水やり等で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア、催し物等での交流を図ってきたことにより認知症の人への理解が深まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	入居者の状況、活動内容、評価の取り組み等について報告、話し合いを行っている。現在、取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	運営推進会議は定期的開催しており、出された意見や要望等を運営に反映させている。委員の参加が容易になるようにと、本年度より開催日を偶数月の第3金曜日に決定し、開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当者とは、常日頃から相談又、情報を共有する等、お互いにサービスの質の向上に向けた取り組みに努めている。	日頃から行政職員との情報交換等を行っている。どんなことでも相談できる体制となっており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、法人の勉強会もあり全職員が理解している。身体拘束によって、入居者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実践している。	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアの実践に努めている。玄関、居室等施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待についての理解ができるよう職員間での勉強会を開き、周知させ又、常に入居者との話し合う時間をとる中でどんな小さな変化にも注意し心の中の言葉を真剣に聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度等について学ぶ機会を持ち、在宅介護支援センターと相談しながら、必要な方には、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者及び家族の不安や疑問点を十分に理解し納得をしていただけるよう、わかりやすい言葉での説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者並びに職員は、常に苦情等について話が出きる環境づくりに努めると共に在宅介護支援センター職員及び法人関連施設職員がボランティアで訪問する等、色々な角度から利用者等と面談させる機会を作り、意見等の吸い上げに配慮している。	あらゆる機会を利用して家族の意見や要望等の把握に努めている。家族参加の行事を多く開催しており、家族が何でも話せる雰囲気作りに努めている。出された意見等は法人担当者や全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、業務会議を通じて話し合い、出された意見は業務会議に反映させ、質の向上につなげている。	会議等で全職員が意見や提言を話し合い、出された意見等は運営に反映させる体制となっている。また、法人の担当者が常に事業所を訪れ、管理者はじめ全職員と常に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に意思の疎通を図るために事業所訪問をし、職員に声をかけると共に、気づいたこと、要望等はお互いに気軽に話ができる雰囲気づくりに心がけている。又、法人で資格取得に向けた勉強会を行い、働く意欲を目的とした取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催での勉強会には、できるだけ多くの職員が参加できるよう働きかけをし更に、外部での勉強会に関しては、関連事業所と連携しながら報告会を開催し、共に研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣市町村のグループホーム連絡協議会を通じ、交流する機会を持っている。常に会議では、課題を持ち寄り活発な勉強会等の活動を行っておりサービスの向上に生かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始することが決定した時点で、現在住んでいる所へ訪問し本人と向き合い本人が困っていること等の気持ちを受けとめ、これから始まる新しい生活への不安が無いように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時点で本人・家族の抱える不安・問題等をできる限り把握し、サービス導入時より不安・問題等を本人及び家族と一緒に共有し、共感しあいながらより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と不安・問題等を共有することにより今、必要としている支援を軸として充実した生活を送るために必要となる支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あらゆる場面において、人生の先輩である利用者の方々より学ぶこと(例えば、伝統行事・郷土料理等)が多く、指導(例えば生活文化の大切さ)を受けたり、共に尊重しながら支えあう関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを家族と共有すると共に、日頃の状態をこまめに伝え、相談している。又、家族と一緒に過ごすための面会を進めたり、より良い関係作りが継続するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を把握し、継続的な交流ができるよう家族に依頼したり、職員と一緒に外出する等の支援をしている。	利用者の知人や友人等が訪問したり、以前の茶飲み友達の家を家族の協力を得て訪問したりして、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や個々の場面を通して協力しあえる機会を作っている。孤独になりがちな入居者には、職員が中に入り、他の入居者との良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所からその後の様子伺いの電話をしたり、家族からもご本人の状態等の報告を頂いている。又、ホームでの行事等に声かけし、参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式(アセスメント)の活用により、利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、本人の意向の把握に努めている。	全職員が日々のケアの中で利用者の行動やしぐさ等から思いや意向の把握をしており、ケース記録等に記入している。また、お正月に「今年してみたいこと」「今思っていること」等をテーマに利用者を書いてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(アセスメント)の活用により、個々の生活歴等を把握し、馴染みの暮らしの継続に向けた支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにて、本人の心身状態を把握し、本人のできることを踏まえ、できないことを踏まえた上で支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、個性や希望、現在の心身状態を把握し、本人・家族とも話し合い、介護計画を作成している。	利用者の状態や家族の意向、職員の気づき等を踏まえ、日常の実施記録をもとに全職員でモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があった場合には随時関係者で話し合い計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別に記録し、入居者や家族と情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した場合、その都度、カンファレンスを行い本人の求めている支援を行っていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域での暮らしを続けられるよう各種、関係機関、団体等と連携・協力している。例えば、保育園児と一緒に花植を行い、本人の力を発揮できる場面作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、特に申し出のない場合には、協力医療機関の説明をし、その機関の医師のかかりつけ医とすることに同意を頂いている。	利用者のかかりつけ医の受診を支援しており、通院には職員が同行し、受診前、受診後に家族に報告し情報の共有をしている。また、法人が医療機関であるので、医療連携体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護職員と情報の共有しあうことにより、個々の利用者が適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関医師との病状等の情報交換又、早期退院に向けた話し合い等もでき、常日頃から十分に連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人並びに家族の意向を尊重し入居時から希望の医療機関と相談しながら方針を共有していき取り組みを行っている。	今年、重度化や終末期に向けた指針を定め、利用者が重度化しても対応できるよう取り組んでいる。方針についてはさらに詳細な部分について検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に勉強会を行っており、急変や事故発生時に即、対応ができるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通し、入居者が安全に避難できるよう常に心がけている。地域での協力体制については、自治会をお願いしたり、運営推進会議でも協力を呼びかけている。現在消防署、地域住民参加での避難訓練を計画中である。	総合防災訓練を9月に消防署の指導のもと、敷地内の同法人の施設と合同で実施することを計画している。また、災害時の食料品等は備蓄している。	避難訓練は年2回のみでなく、全職員が災害時に確実に避難誘導ができるよう数多く実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の対応に関する勉強会を定期的 に実施し、意識付けをしている。又、入居者 一人ひとりにあった言葉掛けや対応がで きるようミーティング時に話し合っている。	日頃のケアの中で職員間で気づいた点につ いては、お互い話し合いながら利用者の尊 厳を損なわないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを行うと共に 日常生活の中で本人に選んで頂く場面作り の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活ができるよう、その時の本 人の気持ちを尊重して、個別性のある支援 をしている。買い物や散歩等、一人ひとりの 状態や思いに配慮しながら柔軟に対応して いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	服装は、本人の好みに応じ、時には職員の アドバイスもある。髪形は、希望により、い つでも理美容室に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行 い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食 事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に食べたい献立を考え、役割分担で準 備や片付けもしており、盛り付けの工夫や食 器選び等を通して食事が楽しめるよう工夫し ている。	食事の準備は利用者ができることを職員と共 に行なっており、差し入れの山菜などの調理 方法は利用者に教えてもらっている。食事介 助の必要な利用者が多くなってきているが、 職員も共に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	協力病院栄養士と連携し、バランスのとれた 食事が提供されている。毎日の食事摂取量 と水分量の確認をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	一人で出来ない方に対しては、毎食後、職 員の介助により口腔ケアを実施し、口腔内 の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながら自立に向けて声かけ、トイレ誘導等の支援をしている。	排泄の自立を目標に支援している。利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っており、声かけについても利用者の羞恥心に配慮し適切に行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力病院栄養士と病態と食事について相談し、メニューに乳製品・食物繊維食品等を取り入れ提供している。更に、生活全般に渡る諸指導を受けて対応している。又、常日頃からリハビリ体操も実施し予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望の時間・回数・長さ・温度に配慮し支援している。	冬期間を除いて、毎日入浴できる体制となっている。季節ごとにお楽しみ入浴と名づけた「桜、紫陽花、薔薇等の花びらを浮かべた」花風呂、その他菖蒲湯やみかん湯等趣向を凝らした入浴は利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を把握し一人ひとりの生活リズムを大切にしている。寝つきの悪い方には、安心してお休みになれるよう声かけをしたり、足浴を試みる等、安眠を促す対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が把握できるよう内服薬のしおりを作成している。状態の変化については、医師に相談しカルテに記入し情報を共有し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしく個々の能力にあった生活ができるよう趣味を生かせる環境作り又、外出等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し家族や地域の人々と協力しあいながら、外出の支援に努めている。買い物・ドライブ・コンサート・催し物の見学等の機会を作り、なるべく外の空気や色々な方との出会いによる刺激・緊張感を持ってもらうよう努力している。	食材の買出しや法人(喜多方)への連絡等には利用者が順番で職員に同行している。事業所では法人のマイクロバスの利用により、全員で外出することが容易であり、季節ごとに外出の機会を多く企画し実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と話し合いながら対応している。ホームで預かっている方でも、買い物の時は本人がお金を持って支払う機会を作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、何時でも電話をかけられるよう環境を整えている。又、手紙については年賀状・暑中見舞い等の季節の挨拶をはじめ、何時でも手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射し等の眩しさは、ロールカーテンで調整し、証明の強度、テレビのトーンは、利用者の希望に応じて調整している。ホーム内には、四季折々の草花を置くと共に、入居者が作成した作品を飾る等、明るく家庭的な雰囲気作りになり心がけている。	共有空間や廊下の壁には利用者が共同で作ったちぎり絵等の大作や利用者の手作りの額等が飾られ、室内も明るく清潔に保たれている。テーブル等も機能的に配置され、ゆったりと寛げる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・和室等、自由に利用して頂いている。一人で過ごしたい時、仲の良い利用者同士でと、くつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	プライバシーに配慮しつつ入居者の方々の個性又、生活歴を尊重し、馴染みの物(趣味の裁縫箱等)大切にしている物(家族の写真等)、自由に持ち込んで頂き居心地良く、その人らしく暮らせるよう工夫している。	使い慣れた家具等を持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。それぞれが個性的で利用者性好みの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーになっており且つ、入居者本位の設備になっている。例えば、シンクや調理台の高さを入居者の使いやすい高さに調節する等、生活環境のあらゆる所に入居者の自立を意識した工夫をしている。		